

有機フッ素化合物が検出された地下水の継続調査について（令和5年度）

1 経緯

- 平成26年3月 有機フッ素化合物のうちペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）及びその塩、ペルフルオロオクタン酸（PFOA）及びその塩が、公共用水域の要調査項目として設定
- 令和元・2年度 環境省が全国存在状況把握調査を実施
- 令和2年5月 要監視項目に追加  
「指針値（暫定）」を0.00005 mg/L（50ng/L）以下（PFOS・PFOAの合算値）とした
- 令和3年6月 令和2年度調査結果公表

2 全国存在状況把握調査結果【環境省実施】

- 実施年度：令和元年度及び令和2年度
- 調査地点：排出源となり得る施設付近の公共用水域及び地下水 各1地点
- 結果： (ng/L)

	令和2年度				令和元年度			
	地点	PFOS	PFOA	合計	地点	PFOS	PFOA	合計
河川	砂押川(多賀城市)	1.5	1.7	3.2	白石川(柴田町)	0.3	0.6	0.9
地下水	名取市	120	670	790	岩沼市	1.1	2.4	3.5

3 当該井戸への対応（令和3年度実施）

- 検出井戸の状況
  - ・ 飲用利用なし
  - ・ 半径500mに飲用井戸が無く、上水道敷設済であることを確認
  - ・ 深度3～4mの浅井戸
  - ➡ヒトへの健康影響について蓋然性は著しく低いと考えられる
- 井戸所有者に対するPFOS及びPFOAの特性の説明、使用状況の確認、飲用を控えるよう再度助言等を実施
- 名取市役所へ情報提供

4 継続調査

「PFOS及びPFOAに関する対応の手引き」（R2年6月環境省水・大気環境局）に基づき、濃度の経年的な推移を把握するため、継続調査を実施。

- 結果 (ng/L)

地点	PFOS	PFOA	合計
令和2年度（参考）	120	670	790
令和3年度	43	97	140
令和4年度	25	54	79
令和5年度	12	92	100

注：調査結果は有効桁数2桁で処理した値を掲載しているため、「PFOS+PFOA」の値は必ずしも「PFOS」及び「PFOA」の結果の合算値とは一致しない。